

学校評価アンケート集計結果

令和4年12月実施 磯部小学校

豊かな関わり

(数字の単位は%)

観点	アンケート項目		A	B	C	D	A+B
心の居場所づくり、絆づくり	教職員	児童がやさしい言葉かけや思いやりのある行動をとれるように指導した。	57	33	10	0	90
	児童	やさしい言葉かけや思いやりのある行動をした。	41	42	14	3	83
	保護者	児童はやさしい言葉かけや思いやりのある行動がとれていると感じている。	28	62	10	0	90
道徳教育、人権教育の充実	教職員	人権に関する学習を行い、ブログや学年便りで発信した。	5	60	15	20	65
	児童	他の人に対して悪口を言ったりいじわるをしたりせず、仲良く生活した。	54	41	4	1	95
	保護者	児童は他の人に対して差別せずに公平に接していると感じている。	39	58	3	0	97
明るいあいさつの推進	教職員	前後期に1回ずつ、あいさつ集会やあいさつ運動を行った。	0	57	29	14	57
	児童	明るいあいさつができた。	42	45	11	2	87
	保護者	児童は明るいあいさつができていていると感じている。	23	55	22	0	78
成果と課題	<p>■心の居場所づくり、絆づくり 日々の教職員の指導や年間を通じて取り組んだポジティブ教育などが成果に結びついているのではないかと考える。しかし、不登校気味の児童が数名いるため、今後も指導・取り組みの継続が必要である。さらにスクールカウンセラーなど外部指導者との協力や保護者との密接な連携も重要である。</p> <p>■道徳教育、人権教育の充実 教職員の評価が低いのは、12月上旬に調査をしたが調査以降の取り組みが反映されていないことがあると思われる。教職員の自己評価は低い、各学年が次の人権学習に取り組んでおり、十分満足できる指導内容だと考える。いじめをなくす（許さない）、下級生をいたわる、拉致問題、LGBTQ、外国人差別、福祉教育（高齢者、障害者）など。特別な授業や行事でなくとも、日々の生活の場面での指導を発信するだけでもよかったのではないかと考える。そう考えればもっと多く発信できたと思われる。</p> <p>■明るいあいさつの推進 児童の挨拶の声は昨年、一昨年に比べて出るようになった。コロナ期の大きな声を出すことを控える風潮から、大きな声を出すことを恥ずかしがったり、出さなくても良いと考えたりする児童が多かったが、少しずつ戻ってきたように感じる。教職員の評価が低いのは、1月のあいさつ運動が反映されていないことがあると考える。評価時期を見通した年間計画の作成や計画の共有をしっかりと行うべきだった。あいさつ運動は、新型コロナ感染対策もあり効果的な取り組みにならなかったかもしれないが、教職員の日々の指導は充実していたと考える。</p> <p>来年度に向けては、以下の点に留意して指導していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団登校で班長・副班長が元気な挨拶で引っ張ってくれると良い。地区子ども会で指導を強化していく。 ・道徳の価値項目に挨拶と関連する内容があるので、全校一斉に道徳で挨拶指導をする。 ・各学期の始めに挨拶に関する生活目標を設定し、挨拶に関わるイベントを行う。 ・「明るいあいさつ」という言葉の意味が抽象的なため、「自分から」や「地域の人にも」、「気持ちの良い声で」といった具体的な指導、評価に変えていく。 ・保護者の評価がやや低いが、地域の人や保護者への挨拶はどのような状況なのだろうか。調査をする必要があるのかもしれない。 						

確かな学び

(数字の単位は%)

観点	アンケート項目		A	B	C	D	A+B
基礎的・基本的な学習内容の定着	教職員	国語・算数の反復学習により基礎・基本の定着を図る指導を行った。	43	48	0	9	91
	児童	オリンピックテストに取り組むことで、基礎・基本が定着した。	38	49	10	3	87
	保護者	児童は国語や算数など基礎・基本の力がついていていると感じている。	19	63	17	1	82
主体的に学ぶ児童の育成	教職員	主体的な学びの場（手立て、しかけ）を意図的・計画的に設定した。	33	62	0	5	95
	児童	主体的に学習に取り組んだり生活を送ったりした。	39	45	13	3	84
	保護者	児童は自分から家庭学習に取り組んでいると感じている。	19	44	33	4	63
読書活動の推進	教職員	児童の読書時間や学校図書館へ計画的に行く機会を設けた。	62	33	0	5	95
	児童	積極的に本を読んだ。	35	35	23	7	70
	保護者	児童は学校や家で読書に親しんでいると感じている。	28	29	32	11	57
成果と課題	<p>■基礎的・基本的な学習内容の定着 オリンピックテストの実施は効果的だった。前向きに取り組む児童が多く、児童の日々の努力の成果を発揮する良い場となっていた。来年度もオリンピックテストを継続して行っていく。裏面には、文法など児童が苦手とする問題を載せていく。</p> <p>■主体的に学ぶ児童の育成 来年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的で良かった態度を評価し、その場で児童に伝えることを増やしていく。 教員がいそべっ子にとっての「主体的な態度」とはどのような姿なのかを一層明確にする。 教員同士で授業を参観し合ったり学級経営について相談をし合ったりする機会をつくり、良さを吸収できるようにする。 教員間で家庭学習の時間や内容、定義などについて検討し共有する。 年に2回行っている「家庭生活パワーアップ大作戦」の期間に限らず、家庭学習の時間への意識を高める指導をする。 「自分から」の表現が、保護者にとってとらえ方が違うのではないか。言葉を吟味し意図が分かりやすい言葉に変える。（言わないとやらないのか、勉強はするがすぐに終わらせてしまうのか・・・。） 家庭学習のモデリングを示す。 <p>■読書活動の推進 高学年の読書量が落ちてしまう。読書が好きな子しか読まない印象がある。学校生活に余裕がなく、読書に向かう時間がつくれず意識も高まらない。 学校ではいろいろな取り組みを行っているが保護者の評価が低いことに対して次のことを行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> P T A文化厚生委員会に、家庭読書の取り組みについての活動を取り入れてもらうのはどうか。 学校公開日に、読書タイムや読み聞かせを取り入れて、学校での読書活動について周知する機会をもつ。 週末読書を定期的に行う。 読書カードの持ち帰り時期と方法を検討する。 低学年はシールで動機付けできるが、高学年はそれが難しいので、それ以外の方法を検討する。 						

健やかな心身

(数字の単位は%)

観点	アンケート項目		A	B	C	D	A+B
運動に親しむ習慣の育成	教職員	学習カードを活用して、運動に親しむように促した。	19	71	10	0	90
	児童	運動に親しんだ。	60	26	12	2	86
	保護者	児童が運動に親しんでいると感じている。	37	38	21	4	75
安全、健康教育の充実	教職員	早寝・早起き・朝ご飯などの規則正しい生活習慣に関する指導を行った。	29	57	14	0	86
	児童	早寝・早起き・朝ご飯などの規則正しい生活が送れた。	42	38	15	5	80
	保護者	児童は早寝・早起き・朝ご飯などの規則正しい生活習慣が身についていると感じている。	42	44	13	1	86
児童理解、教育相談の充実	教職員	個々の児童理解に努めた。	62	38	0	0	100
	児童	先生方は自分の話を聞いてくれた。	76	23	1	0	99
	保護者	教師は児童の話を聞いてくれていると感じている。	46	51	3	0	97
成果と課題	<p> ■運動に親しむ習慣の育成 学校では、幾つかの単元でカードを使った学習を行っている。保護者の評価が低いことに対して次のことを行っていく。 ・学年によってカード利用のばらつきがあったので、学年間で紹介し合うなどして広めていく。 ・体育カードやあそびんピックカードを定期的（学期に1回程度）に家庭に持ちかえり周知していく。 ・活動内容をブログで発信していく。 </p> <p> ■安全、健康教育の充実 ここからチェックや給食だより、ほけんだよりを通して、保護者への啓発ができた。継続して取り組んでいきたい。 </p> <p> ■児童理解、教育相談の充実 お話タイムで一人ひとりの話を担任が丁寧に聞いているが、そのことが効果的だったと考える。また、気になる児童がいると、すぐに時間をつくり話を聞いたり、外部指導者との面談につないだりすることができたことも大きかったと考えられる。対応が難しい場合は、専門家を交えた会議などで対応策を相談したことで、効果的な指導ができた。スクールカウンセラーの先生による研修会を実施し、大変勉強になった。不登校気味の児童に対する今後の指導については前述の通り行っていく。 </p>						

信頼される学校

(数字の単位は%)

観点	アンケート項目		A	B	C	D	A+B
家庭、地域、保幼小中との連携	教職員	地域と連携した学習活動や行事を行った。	48	43	0	9	91
	児童	地域と連携した学習活動や行事に参加し、地域のことがよく分かった。(楽しく活動できた)	60	35	4	2	95
	保護者	児童は地域と連携した学習活動や行事に参加し、地域のことがよく分かった(楽しく活動できた)と感じている。	18	70	11	1	88
教職員の資質と指導力の向上	教職員	校内研修を通して授業改善に取り組んだ。	24	67	9	0	91
開かれた学校、積極的な情報発信	教職員	おたよりやブログの充実に努めた。	24	33	38	5	57
	保護者	おたよりやブログの内容に満足している。	24	67	8	1	91
成果と課題	<p>■家庭、地域、保幼小中との連携 ・自分たちの身近なところを深く知ることができたり改めて知ることができたりしたことが、児童の楽しみにつながったのではないかと考える。ホタルに関する学習、磯部地区・坂井市・福井県に関する地理・産業・歴史・文化に関する学習、地域のバリアフリーに関する学習、町づくり協議会の方とのふれあいなどが行われた。今後も継続し深めていく。</p> <p>■教職員の資質と指導力の向上 徐々に教員の意識も高まってきた。研究授業後の授業検討会でも深まった話し合いができてきた。毎月の職員会議後に交代で授業実践を報告し合ったが、若い教員には参考になることが多かったのではないかと考える。</p> <p>■開かれた学校、積極的な情報発信 ブログのアップ数は、年々増えてきており、保護者評価の高さにつながっていると考える。保護者アンケートでクラスによってブログのアップに偏りがあるという意見があった。来年はその点も配慮していく。</p>						